

渡島東沿岸海岸保全基本計画

平成28年 6月

北海道

1. 海岸保全基本計画策定の目的

我が国の海岸制度は、昭和31年の海岸法の制定により、海岸四省庁（農林水産省、水産庁、元運輸省、元建設省）による海岸管理が開始され、現在に至ります。このことにより、毎年のように来襲する台風や大地震による高潮や津波等から、海岸の背後地の多くの人命や財産を防護するという役割を担ってきました。

その後、広域的に顕在化する海岸侵食への対応や、社会的なニーズに応じた海岸環境に配慮した海岸整備、利用しやすい海岸整備を目指してきました。

しかし、環境意識や心の豊かさへの要求が高まっている一方で、最近頻発している油流出への適切な対応や、車の乗り入れ等による動植物の生息する自然空間の破壊など、種々の問題が生じてきました。また、地域住民の意見を反映した海岸の計画制度や、国と地方の役割分担の明確化など、海岸の整備・管理のより一層の充実が必要となっていました。

こうした状況を踏まえて、海岸四省庁では、この提言に基づき、海岸法の改正の検討を行い、平成11年第145回国会に「海岸法の一部を改正する法案」を提出し、同国会において可決成立しました。

この海岸法の改正により、国は、海岸の保全に関する基本的方向性を明らかにするため、その共通の理念となるべき「海岸保全基本方針」を定め、これに基づき都道府県知事が計画的でかつ整合がとれた海岸の保全を行うため、「海岸保全基本計画」を定めることとなり、渡島東沿岸において、「海岸保全基本計画」を策定するものです。

なお、本計画は、地域の状況変化や社会状況の変化に応じ、適宜見直しを行うものとします。

2. 対象範囲

渡島東沿岸の対象範囲は、下図の般法華村恵山岬から室蘭市地球岬までの2市8町1村の沿岸域とします。ここで沿岸域とは、海岸線を挟み海域と陸域が一体となって機能すべき空間と定義し、海域については、海洋構造物の施工可能な範囲、沿岸漁業や海洋性レクリエーションの活動範囲などを考慮して、水深50mまでとし、陸域については海域の環境・防護・利用と密接に関わる範囲として、海岸線から内陸側に約1kmまでとします。ただし湾内は水深に関わらず全て対象範囲とします。

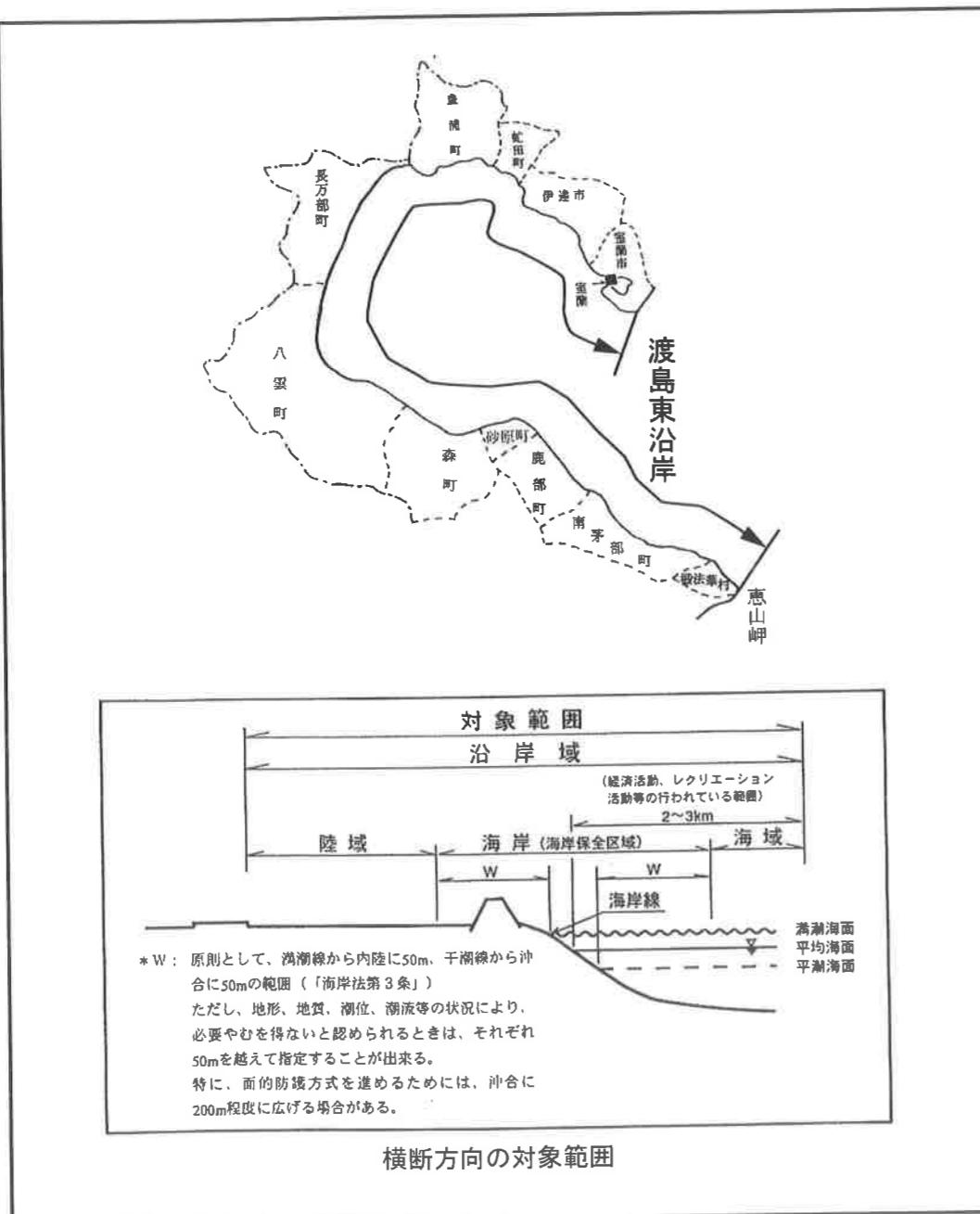


図-1 対象範囲図

3. 調査概要

3-1. 沿岸域の特性の把握

自然条件、人文・社会条件、利用の状況及びその他の計画について把握しました。

- I.自然条件・・・(気象・海象、陸域環境、海域環境、自然景観、自然環境保全状況)
- II.人文・社会条件・・・(人口、産業、交通、土地利用、歴史・文化、地域防災計画)
- III.利用状況・・・(資源分布、観光入込客数、漁港規模、航路状況、港勢状況、漁業)
- IV.沿岸保全の現況・・・(管理区分、保全施設現況、施設の整備時期、被害実績、汀線)
- V.将来計画・構想・・・(北海道総合計画など、道路・河川・漁港などの長期計画、沿岸利用計画、沿岸域のプロジェクト)

3-2. 沿岸域特性の分析及び課題の抽出

渡島沿岸の特性を把握した後、「海岸の防護」「海岸環境の保全」「海岸の利用」の観点から特性を分析し、課題を抽出しました。

1) 海岸の防護

津波、高潮、波浪、侵食による被害状況を定量的に分析し、現況施設との関連を明らかにし、それらの発生頻度および被害度に基づき緊急性の評価を行いました。

それらの結果に基づき、課題の抽出を行いました。

2) 海岸環境の保全

名勝や自然公園等の優れた景観、天然記念物などの貴重な動植物、歴史、文化、などの分布および地域性を明らかにし、それらの重要性を評価しました。

さらに、海岸の環境に対する住民の期待および意識度をアンケート調査に基づき分析しました。

それらの結果に基づき、課題の抽出を行いました。

3) 海岸の利用

海岸とのふれあい方を、住民へのアンケート調査に基づき分析し、それらの意向に対する現況施設の状況および現時点での計画の有無を具体的に明らかにし、公衆の利用に対しての適正度を評価しました。

それらの結果に基づき、課題の抽出を行いました。

4. 渡島東沿岸域の概況

4-1 気象・海象の概況

内浦湾に面した渡島東沿岸は積雪寒冷の厳しい北海道にあって、比較的温暖で暮らしやすい地域となっています。冬期は津軽暖流の影響を受けて気候が温和で、積雪期間が道内で最も短く、北西季節風が渡島山地によって遮られるため、降雪量も日本海側に比べると極めて少なくなっています。こうした気候を生かし、伊達近郊では道内の促成野菜の一大生産地としての地位を占めています。

沿岸の海流・潮流は湾内ということもあり、流向・流速ともに不定で緩慢です。波浪は太平洋からの外洋波と湾内波が重ね合い発達します。冬期は北西季節風によって荒天の日が続きますが、日本海側に比較すると平穏な日が多くなっています。霧は、室蘭付近で春から夏にかけて、陸上で視程が1km以下となることがあります。室蘭以西の内浦湾での霧は少なくなっています。また、特に恵山沖は津軽海峡を東流してきた対馬海流（暖流）と太平洋岸を南下する千島海流（寒流）とが合流する場所で、豊富な漁業資源に恵まれ「恵山魚田」として呼ばれる程です。

風浪の特徴としては、津軽海峡から襟裳岬の海域では南東風の「やませ」が吹き荒れます。風力は海峡内に比べ弱いですが、激しい雨や雪を伴い船舶の航行を困難にします。また、室蘭付近は日本海中部に低気圧が現れたとき東南東風が非常に強くなります。

4-2 地形・地質の概況

渡島東沿岸は、海底勾配が急で岩礁がつづく恵山岬から砂原町砂崎の区間と、海底勾配が緩やかな内浦湾海域の砂原町砂崎から地球岬までの2つの区間に大きく分類できます。

恵山岬から南茅部町付近までは岩礁が入り組み、激しい海底地形となります。その沖合は海底勾配が急になり、水深20m以深では小礫～中礫・砂の分布域となります。鹿部町付近はやや凹凸のある海底地形となり、小礫～中礫が主に分布しています。これらの礫は主として1929年駒ヶ岳噴火の軽石です。砂原町付近は比較的平坦な海底地形となり、沿岸は中砂～粗砂、水深50m以深では泥の分布域となります。

一方、内浦湾（噴火湾）は平均海底勾配が1/100～1/200と緩やかで、海底のほとんどで泥が分布し、湾内西部の水深30～40m以浅では細砂が分布しており、水深が深いほど泥分（シルト・粘土）が多くなります。湾内北部の長万部町静狩から豊浦町にかけての沿岸では中砂や岩礁が分布しており、海底勾配は比較的急になります。有珠付近は入り江などの地形が見られ、複雑な海岸線となっています。伊達市から室蘭港にかけては平坦な海底地形となり、細砂や中砂、その沖合に泥が分布しています。渡島東沿岸の東端となる地球岬は入り組んだ岩礁地帯となり、水深40～50mまでは主に細砂が分布し、その沖合は泥の分布域となります。

4-3 海岸防護の概況

我が国は、台風の常襲地帯にあり、地震多発地帯で津波の来襲も多い厳しい地理的・自然条件下にあります。渡島東沿岸は、想定される地震震源が十勝沖、三陸沖、日本海沖など近接した位置に存在しています。また噴火湾沿岸のほとんどが砂浜海岸であり、その背後に接近して市街地が広がり、更に国道JRなど重要交通機関が集中する交通交差の要所となっています。そのため住民の津波に対する不安及び関心は非常に高いものがあります。また北海道としても交通の要所として最重要防護地域として位置づけ、関係機関の総合した取り組みが望まれています。

それに加え、津波・波浪の影響を減少させることができ自然防護施設である広い砂浜は、噴火湾のほぼ全域で侵食され、海岸線が著しく後退しています。この状況は、陸域に対して直接的な影響をもたらすものであることから、津波対策と共に侵食対策の抜本的な取り組みが必要となっています。

当沿岸は、市街地や集落を間近にひかえていることから、多様化した利用に向けて環境や利用にも配慮した施策も合わせて取り組む事が望されます。

また、平成12年の有珠山噴火に伴う交通アクセスの停滞を教訓とするとき、当沿岸には有珠山を含め三つの活火山が存在し、この状況は他の区域には見られない陸域環境と認識しておくべきものであると思われます。



写真-1 虻田海岸

4-4 海岸環境の概況

沿岸の地形は多様です。全道を代表する展望地地球岬周辺の海蝕崖にはじまり、有珠山を望むアルトリ岬～ベベシレト岬の岩石海岸・海蝕崖。静狩・礼文華の高質な火山岩により構成された複雑な地形をなす岩礁海岸と入り江。静狩港から長万部～八雲にかけては長万部川や国縫川そして遊楽部川が流入し良好で広々とした砂浜を形成しています。駒ヶ岳のすそ野に位置する砂原町砂崎では、潮の流れと砂の堆積によって造られた砂丘・砂嘴が見られます。ここから海域は太平洋となり駒ヶ岳山麓を巡り丘陵地が海に落ちるところに出来澗崎の海蝕崖が見られます。その先の恵山岬までは礫浜・岩礁・岩石海岸が続き、南茅部町の獅子鼻岬など変化に富んだ海蝕崖が大勢を占めています。

こうした変化に富んだ地域には、原始をとどめた礼文華海岸自然林や静狩カシワ林、また天然記念物の茅部の栗林、恵山の高山植物群、鳥類では地球岬の断崖周辺生息する猛禽類のハヤブサなどの貴重な動植物が自然と共生しています。

支笏洞爺国立公園・駒ヶ岳国定公園・恵山道立自然公園の三つの公園とそこに活動する有珠山・駒ヶ岳・恵山は当沿岸域陸域を特徴付けています。



写真-2
地球岬周辺（室蘭市）



写真-3
砂浜海岸（長万部町）

4-5 海岸利用の概況

渡島東沿岸は、延長の45%に相当する約120kmが砂浜海岸であり噴火湾の静穏な海域と対馬暖流による温暖な気候と相まって良好な空間を保っている地域です。

噴火湾沿岸では内湾で穏やかな海域特性を利用して、ホタテ養殖や毛ガニなどの浅海魚業が盛んです。また渡島東部の恵山近海では、千島寒流と対馬暖流とがぶつかる海域にあるため漁業資源が豊かで沿岸漁業は高い水揚げ高を誇るなど、豊かな漁業資源に恵まれています。その一方で将来の漁業資源を維持するための「育てる漁業」の場として利用しています。

景観は、当沿岸の多様性と国立・国定・道立の三つの自然公園によって豊富な観光資源が確保され訪れる人々を魅了しています。

また、地形的特徴から海と背後の山々までが近く、山麓には多くの温泉が点在し、海での海水浴にはじまり、温泉・ハイキングと海から山までの連携したレジャーを楽しめる環境にあります。しかし、沿岸でのレジャーは、海水浴程度に留まっており、またその区域も偏る傾向にあります。今後は、多くの人々の多様なニーズに応える事も含め、新たなレジャーへの対応に配慮して取り組むことが必要です。

温暖な気候を有効な恵みとして、道内外からオールシーズンの観光を意識した取り組みも望されます。



写真-4 ホタテ漁（八雲町）



写真-5 昆布漁（南茅部町）



写真-6 鮎子海岸（樺太華村）

4-6 海岸の現況(1) ~伊達海岸~

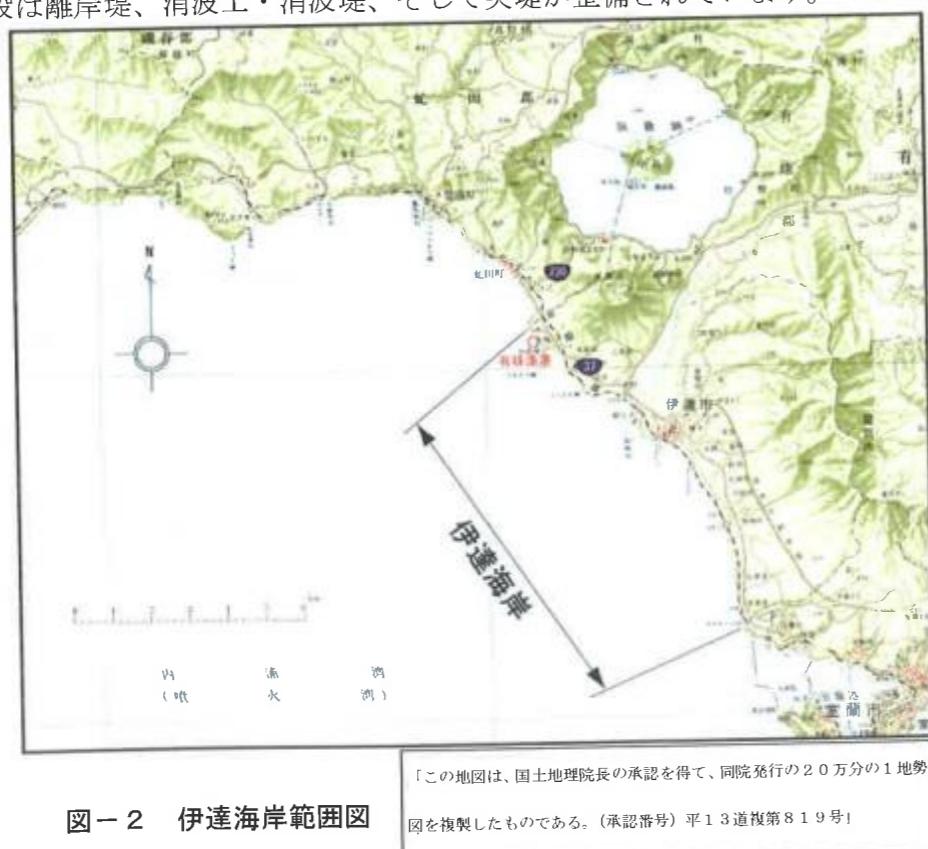
渡島東沿岸の現況特性は自然環境条件、利用の状況、海岸保全の現況等について把握しました。ここでまず、伊達海岸について、その概況を示します。

伊達市（伊達海岸）は、内浦（噴火）湾の東に面し、札幌市と函館市の中間に位置し、平地が比較的広く、特に長流川流域では内陸まで平地が広がっています。気候は対馬暖流の影響により積雪が少なく、温暖で『北の湘南』といわれています。道内のほとんどの開拓地が屯田兵によるものに対し、本市は仙台の伊達の武士たちが開拓した歴史と伝統があるまちです。

海岸沿いにはJR室蘭本線、その背後には国道37号、北海道縦貫自動車道が走り、道南・道央を結ぶ交通の要衝となっています。産業は古くより農業・漁業を中心に関発展してきました。農業は古くから寒地農業の確立を図り、恵まれた気象、土壤条件を活かした都市近郊型農業を確立してきました。漁業は内浦湾内の環境を生かし、漁港整備も進み、“採る漁業”から“育てる漁業”を推進し、ホタテ養殖を中心に、サケなどのふ化事業も定着しています。工業は、食料品製造業が多くを占めています。

本海岸は約17kmに及ぶ砂浜海岸と岬の崖海岸からなっています。最近10年間平均での年間汀線後退量は最大で約40cmであり、今後も侵食に対する注意が必要です。アルトリ岬の自然景観と海岸利用促進のための計画が検討されています。

市周辺には、昭和新山と有珠山そして洞爺国立公園があり、自然豊かな環境となっています。海岸保全施設は離岸堤、消波工・消波堤、そして突堤が整備されています。



自然豊かな伊達海岸



写真-7

海岸景観が良好なアルトリ岬と隣接する伊達海水浴場



写真-8 アルトリ岬



写真-9 有珠海水浴場（伊達市）



写真-10 昭和新山



写真-11 洞爺湖

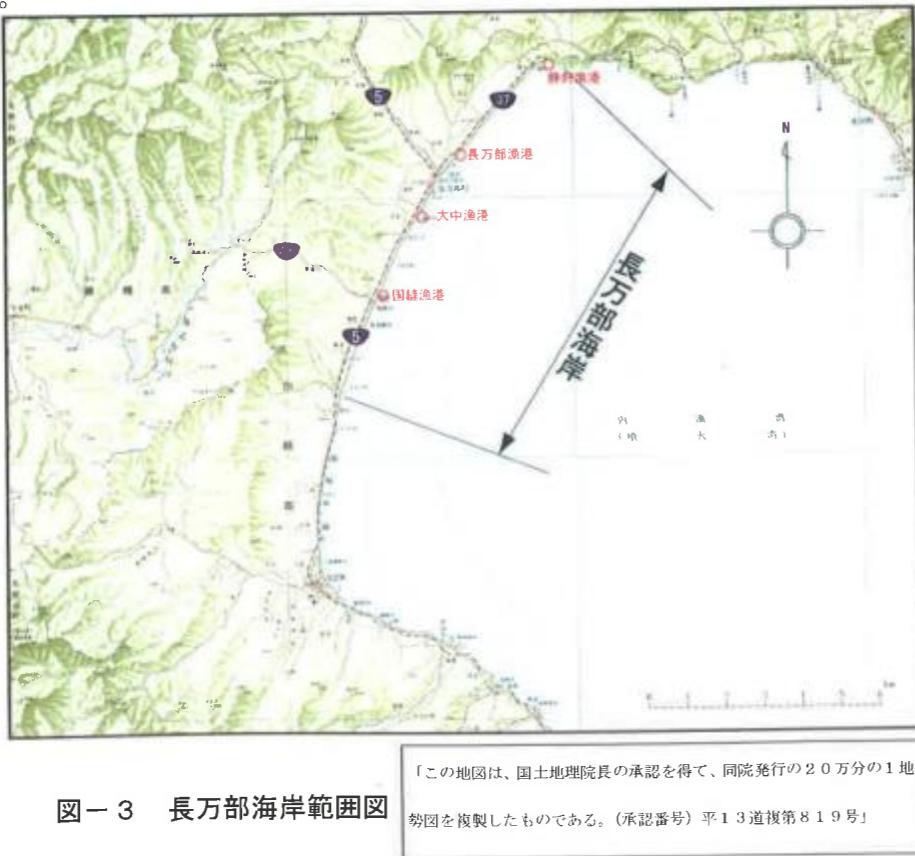
4-6 海岸の現況(2) ~長万部海岸~

次に、渡島東沿岸の湾奥部の長万部海岸についてその概況を示します。

長万部町（長万部海岸）は内浦湾の最奥部に位置し、大部分が丘陵地と山地からなり、平地は湾に沿って南北にのび、雪の少ない温暖な地域です。海岸沿いには国道5・37・230号、JR函館・室蘭本線が交差する道南・道央を結ぶ交通の拠点となっています。産業は古くより農業・漁業を中心に発展してきました。農業は気象条件や土地条件により酪農経営を主体としており、漁業は恵まれた内浦湾内の環境の中、漁港整備も進み、ホタテ養殖を中心にサケ・マス、毛ガニ、カレイ、ホッキなどの沿岸漁業が営まれています。工業は、食料品製造業が多くを占め、その他、基礎素材型の工業が主体となっています。

海岸の自然環境は約30kmに及ぶ砂浜海岸と北部の岩礁・海蝕崖からなり、砂浜は比較的幅が広く30~50m程ありますが、侵食の傾向もあり注意が必要です。静狩～礼文華地区の海蝕崖は「すぐれた自然地域」「静狩礼文華道自然環境保全地域」（北海道）、また、静狩のカシワ林と共に「特定植物群落」（環境省）として指定された自然豊かな環境であり、湾内随一の景観を誇ります。

海岸保全施設は市街地区、中の沢、静狩地区に護岸・堤防、消波工が設置されています。漁港は現在、静狩、長万部、大中、国縫の4つがあり、長万部町の主要産業です漁業の拠点となっています。この内、国縫漁港は漂砂による港内・航路埋没や環境への影響、海岸侵食問題等の解決を目的に、平成5年度に完成した日本初の島式漁港です。完成後も近接海岸への影響について各種調査により検証を行っています。



自然豊かで、湾内随一の景観を誇る静狩地区と長万部海岸の砂浜



写真-12 静狩地区の海岸景観



写真-13 長万部海岸の砂浜

漂砂対策や海岸への影響に配慮して造られた日本初の島式漁港である国縫漁港



写真-14 国縫漁港

現在、国縫漁港の周辺は海浜公園として、内浦湾を360度見渡せる展望台などが整備され、釣り場としても人気がある憩いの場となっている。



写真-15 展望台



写真-16 海浜公園

4-6 海岸の現況(3) ~南茅部海岸~

次に、渡島東沿岸の南端部の南茅部海岸について、その概況を示します。

南茅部町（南茅部海岸）は、北海道の南端、渡島半島の南東部の噴火湾に面し、函館市に隣接しています。山地と台地が大部分を占め、万葉敷高原をはじめ陸域の豊かな自然と寒流の親潮と暖流の対馬海流が交錯し、噴火湾の豊かな海の恵みがあり、磯の香りに包まれた美しい海の風景を有する漁業の町です。気候は本州に近いため、初夏には梅雨があり夏は雨が多いのが特徴で、降雪量は少なく道内では比較的温暖な地域です。また、この地では縄文時代の遺跡が多数存在し、本州各地との交易を示す貴重な遺物が出土しています。

海岸沿いには国道278号が走り、産業は古より林業・漁業を中心に発展してきました。町面積の93%を占める森林に対し、町有林経営に団地を形成し、計画的な管理・育成を図っています。漁業では『真昆布』が有名で、朝廷や将軍家に奉納されたため“献上昆布”と呼ばれています。豊かな漁業のため、豊富な魚種、良質な海草に恵まれ、就業人口の約6割が何らかの形で漁業に携わっています。地域の特性に即し、“管理し、つくり育てる漁業の実践”と加工業の育成強化を推進しています。商工業では、食料品製造業が多くを占めています。

本海岸は、ほとんどが崖、岩礁海岸であり、狭い平地に資産が集中しています。また、外洋に面しているため越波による国道通行止の被害、浸水被害を受けています。

環境面では、弁天岬の陸けい砂州、岩戸海岸や木直海岸そして立岩海岸や古部海岸の優れた海岸景観があります。また、隣接して恵山道立自然公園があります。

海岸保全施設は護岸、離岸堤、消波工・消波堤、そして突堤が整備されています。

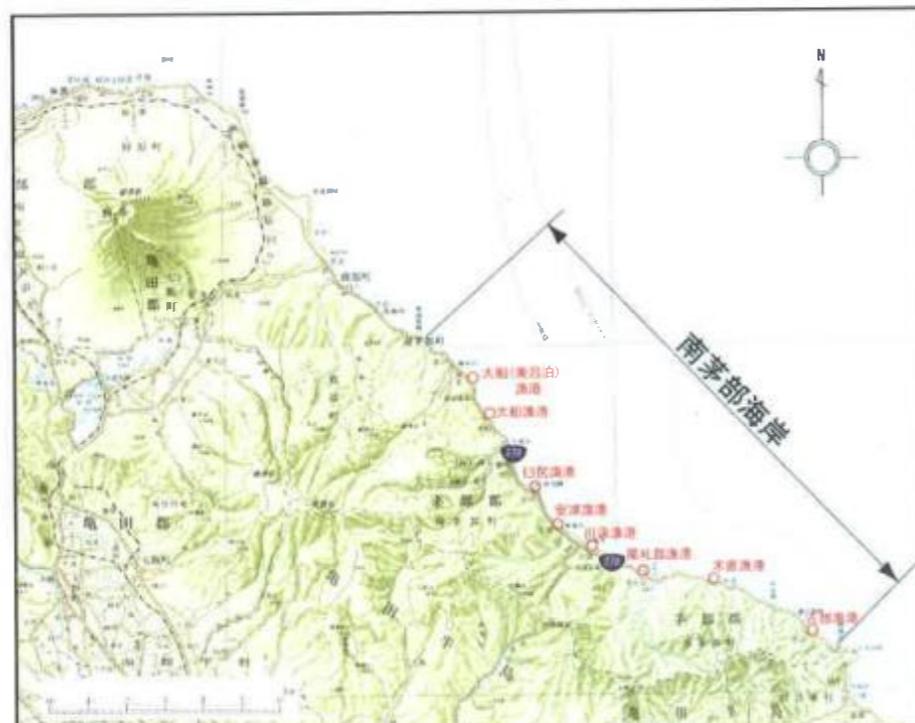


図-4 南茅部海岸範囲図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地図を複製したものである。(承認番号) 平13道復第819号」

豊かな自然と古代遺跡のある南茅部海岸



写真-17 空から見た南茅部海岸



写真-18 黒鷺岬



写真-19 木直獅子鼻岬



写真-20 大船C遺跡